

令和3年度第2回吹田市文化振興審議会作業部会 議事要旨

- 1 開催日時 令和3年10月6日(水) 開会 午後6時 閉会 午後8時00分
- 2 開催場所 オンライン
- 3 案 件 第2次吹田市文化振興基本計画(素案)について
- 4 出席委員
藤野 一夫 会長 芸術文化観光専門職大学 芸術文化・観光学部教授
古矢 直樹 委員 吹田市文化振興事業団副理事長
串崎 幸代 委員 千里金蘭大学 生活科学部准教授
福留 和彦 委員 大和大学 政治経済学部教授
- 5 公開・非公開の別 公開・非公開
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議進行

【事務局説明】

●第2回審議会での議論の確認

【資料1 No.1計画の呼称について】

事務局 資料2(追加分)のNo.16のとおり、審議会委員の賛同を得られたため呼称「吹田市文化政策ビジョン」とする。

【資料1 No.3大綱Ⅰ施策3の「情報発信」の表現、No4大綱Ⅱ・大綱Ⅲの説明文の修正、No.5大綱Ⅱ施策1の「アーティストや指導者への育ち」の表現について】

事務局 前回の審議会で見解がなく、書面での意見もなかったため、修正案どおり

とする。

【資料1 No.6「計画の対象範囲」と「文化政策の主体・役割」の追加について】

事務局 呼称を「吹田市文化政策ビジョン」としたため、第1章「計画の概要」に追加する計画の対象範囲と主体役割の標題を、「4 文化政策の対象範囲」、「5 文化政策の主体・役割」とする。

【資料1 No.8「大綱Ⅰ施策2の◆現状」の追加文章について】

事務局 「文化的民主主義の実現」という言葉を、第3章の1「基本的な考え方」に移し、もう少し詳しく記載する方法も考えられる。

会長 文化の民主化と文化的民主主義の違いは一般の人には分かりづらい。文化は一般的に敷居の高いハイカルチャーというイメージがあり、もっと幅広く一般的なものへ、といういわば上から目線の考え方が文化の民主化であり、文化的民主主義はそれと違う立場。そういった注釈が必要。

A委員 文化的民主主義は、ネットの検索でもなかなか出てこない単語のため、丁寧な解説が必要。

会長 今後10年を考えると先進的な表現でよいが、丁寧な説明が必要である。

事務局 施策は事業に紐づく形で記載しているので、やはり「基本的な考え方」に注釈を加えたうえで記載することとする。

●審議会委員からの意見（書面提出分）

【資料2 No.1「第2章1これまでの成果」の「1活性化」の項目の修正、No.2「第2章1これまでの成果」の「4伝承」の項目の修正について】

事務局 博物館の展示内容や、旧西尾家住宅の記載事項について、現在の実態に合わせて内容を修正する。

会長 文化財の場合「修理」という表現ではなく「修復」の方が一般的でよいのではないか。

事務局 表現方法については確認する。

【資料2 No.3 語尾の表現について】

会長 予算措置のあるものに対して、「実施する」と言い切ってしまうのは、難しい。「目指す」という表現がよいのではないか。

事務局 内容を精査し、なるべく積極的な表現に修正する。

【資料2 No.4 「文化活動」の表現について、資料2（追加分）No.14 「メディア芸術」の表現について】

事務局 基本的に、「文化活動」のように一つの単語とみなされるものは、「芸術」をつけずに記載している。

会長 「文化活動」という言葉はアマチュアのイメージが強く、「文化・芸術活動」はプロのニュアンスがある。

B委員 「文化活動」は市民のみの活動の印象がある。プロ・アマ両方を含む表現であるならば、「文化・芸術活動」と表現する方がよい。

C委員 前後の文脈で違和感がなければ、「文化・芸術活動」と表現する方がよい。

A委員 「文化財」のように芸術から外れる部分を除けば、「文化・芸術活動」の表現がよい。

事務局 「文化活動」の多くは市民を想定した文脈で使用しているが、「文化・芸術活動」と表記してもよいか。

C委員 「文化・芸術活動」は文化活動又は芸術活動という表現なので、よいのではないか。また、文脈の中で、あきらかに市民向けの活動については文化活動と表現してもよいと思う。市民は素人のみというわけではないので、柔軟性があればよい。

A委員 私としては、芸術活動を広く捉えているので、プロでなくとも「文化・芸術活動」としてよいと思う。

- 会長 幅広く「文化・芸術活動」と表現する。
「メディア文化・芸術」については、一般的に「メディア芸術」という言葉が定着しているため違和感がある。
- B委員 「メディア文化・芸術」という言葉は範囲が広い。
- 会長 コロナ禍において、デジタル化は大きな可能性があり、受け入れざるを得ない状況である。デジタルの脆弱性・危険性とデジタルによって生まれる文化の両面があるが文化の民主化に貢献している。
- C委員 デジタル文化とは具体的にどのようなものか。
- 事務局 もともと、吹田市文化振興基本計画の中では使われていない表現である。
- 会長 DX（デジタルトランスフォーメーション）等までをも今回の計画に取り入れるのは、範囲が広く難しいので、一端保留とする。

【資料2 No.5 英語の略語表記について】

- 会長 WEB、SNS、ICT等は最近では一般的に使われている。計画なのであいまいな表現は避け、裏付けのある言葉がよい。
- C委員 新聞にも頻繁にでてくるので、この言葉のレベルであれば一定理解がおよぶと思うので、使用に関してはやむを得ないと思う。

【資料2 No.6 カタカナ語表記について】

- 会長 アートマネジメントについては注釈をつけた方がよい。コミュニケーションスキルについては、日本語にすると余計表現が難しいので現状どおり。

【資料2 No.8 表記ゆれについて】

- 事務局 同じ語句について、表記ゆれがある箇所については、事務局で修正する。

- 【資料2 No.9「普及啓発」の表現について、No.10「行政」の指す範囲、No12「文章の主語」について】

事務局 事務局で精査する。

【資料2 No.11「大綱Ⅲ施策1◆今後」の「文化プログラムを考察する」という表現について】

会長 「考察」という表現は客観的なものである。「活用」や「応用」で代用してはどうか。

事務局 事務局で内容を精査し修正する。

【資料2 No.13「人間性」という表現について】

会長 「人間の感性」に限定せずとも、さらに包括的な表現の「人間性」の方がよいのではないか。

委員一同 異議なし

C委員 大綱Ⅲ施策2の現状の部分では、「豊かな人間を育む」と表記されている。

事務局 「豊かな人間性」に修正する。

【資料2（追加分）No.15「生涯学習」の説明文について】

会長 生涯学習では自己実現が重要視されるので内容についてはよいと思うが、他との並びを考えると少し違和感がある。客観的な定義のままでよいのではないか。

C委員 学習の広さに限定をつけることに違和感がある。無難ではあるが、元の表現の方がよい。

会長 この項目については、このままの表現とする。

【資料2（追加分）No.16計画の呼称、No.17「大綱Ⅰ施策2◆現状」の追加文章について】

事務局 この項目については、委員の賛同が得られたので修正、追記する。

●第2回文化振興審議会作業部会への提案事項

【資料3「第3章1 基本的な考え方」の追加文章について】

会長 4段落目の「今後、従来とは異なる文化的背景を持った住民や勤労者の増加が予想されます。その点でも、社会包摂と共生社会の推進が文化政策には求められます。」の部分については、現状で結びつく施策がなくとも、今後10年を見据えて表記すべきである。また、5段落目の「地球規模の気候変動」という表現は、文化政策とは結び付きづらいが、視野が狭かった今までの考え方から、文化政策は公共政策であることの認知を得たいという意味で記載したい。

委員一同 異議なし

事務局 施策にこのあたりの記載がないため、付け加える必要がある。追記するとすれば大綱Ⅲ施策2、大綱Ⅲ施策3を膨らます形で記載するか、大綱Ⅱ施策3に環境保全という意味合いで書き込む形がよいか。

A委員 大綱Ⅲ施策1の防災・減災等の項目にも関連すると思う。

C委員 大綱Ⅰ施策3にメッセージ等を伝えるという意味で書き込んでどうか。

会長 全てに関係していると考える手もある。SDGsには文化の項目がないが、全てに文化が関係しているともいえる。

事務局 要所に環境に関する言葉を盛り込むという形で、後日事務局案を提示する。

【その他】

C委員 「第1章計画の概要」の追加予定の「5 文化政策の主体・役割」について、図書館は学習装置の一つと考えるならば、使用できる主体の範囲が絞

られるが、そのあたりの整合性はどうか。

事務局 広域連携で近隣の市町村は申請があれば使用可能だが、施設の使用なので一定の線引きはある。計画としては対象を広くしたいためこの表現にしている。

A委員 大綱Ⅱ施策2の今後の(4)と(5)が同じ内容に見えるが、まとめてみてはどうか。

会長 吹田市が演劇ワークショップに特に力を入れていくのであれば、分けてもよいと思う。

B委員 メイシアターは演劇に力を入れてきたので、個人的には分けて記載したい。

会長 「成果発表の場の創出や、演劇ワークショップによるコミュニケーションスキルの向上等」とすると一つにまとまる。

事務局 一つにまとめる方向で調整する。